

埼玉県内における暖地性樹木類の育苗法

農林総合研究センター（森林・緑化研究所）

キーワード：植木類、栽培管理、暖地性樹木類、越冬状況

1 技術の特徴

温暖化の影響により、埼玉県内での暖地性樹木類の越冬が可能になると考えられたため、幼苗（は種苗・一年生苗）の越冬状況を調査し、露地ほ場で越冬可能な樹種（は種苗・一年生苗：クスノキ・センダン・トサミズキ、一年生苗：ギンヨウアカシア・タブノキ）を明らかにした。施設での栽培条件について、冬期加温（ガラス温室）・無加温（パイプハウス）での栽培は、露地ほ場と比較して越冬時の障害の発生が少なく、は種苗と一年生苗では、一年生苗の方が越冬時の障害の発生やその後の生育への影響が少ないことを明らかにした。

2 技術内容

は種苗は、クスノキ・ヤブニッケイは試験区への直播きとし、ギンバイカ・ギンヨウアカシア・センダン・トサミズキは、は種床で発芽した苗を鉢上げして試験区へ移植した。一年生苗はポットから取り出し、鉢状に固まった根をほぐしてから移植した。試験期間中の各区の最低気温は、温室が1.9℃、ハウスが-7.3℃、露地ほ場が-8.5℃であった。

各樹種の生育・越冬状況については以下のとおり。

(1) クスノキ

は種苗・一年生苗ともに、ハウス内の生育では徒長する傾向があるため樹形を整える必要がある。ほ場では寒風の影響で葉枯れや変色が発生したが春期には回復し、生育には影響しなかったため、ほ場での育苗・越冬が可能である（図1、9、10）。なお、温室・ハウスでは、冬期でもキチョウやエダシヤクが発生し食害を受けたため、対策が必要である。

(2) ギンバイカ

ハウス・ほ場で寒風・降雪により枝葉等の枯損が発生したが春期には回復し、ハウスでの葉枯れは生育に影響しなかった。は種苗・一年生苗ともに温室・ハウスでの育苗・越冬が適切である（図2、9、10）。

(3) ギンヨウアカシア

ほ場では全てのは種苗が冬期に枯損し、一年生苗で枝葉の枯損が発生した。は種苗はハウスでの育苗・越冬が適切であり、一年生苗はほ場での越冬が可能である（図3、9、10）。なお、一年生苗は温室・ハウスでは、冬期でもキチョウが発生し食害を受けたため、対策が必要である。

(4) センダン

は種苗・一年生苗ともに冬期に障害が発生しなかったため、ほ場での育苗・越冬が可能である（図4、9、10）。なお、温室・ハウスでは、夏から秋にかけてエダシヤクが発生し落葉時期まで食害を受けたため、対策が必要である。

(5) タブノキ

冬期のほ場では寒風の影響により葉枯れと葉変色が発生し、ハウスでは、側面開口部付近での葉変色が発生したが春期には回復し苗の生育には影響しなかったため、ほ場での育苗・越冬が可

能である（図5、10）。温室・ハウスでは、夏期にカイガラムシ類の加害により葉枯れが発生したため、対策が必要である。

(6) ダンコウバイ

ハウス・ほ場で寒風・降雪の影響による枝枯れを確認したが、ハウスの枝枯れは春期には回復し、生育に影響しなかった（図6、10）。温室・ハウスでの育苗・越冬が適切である。

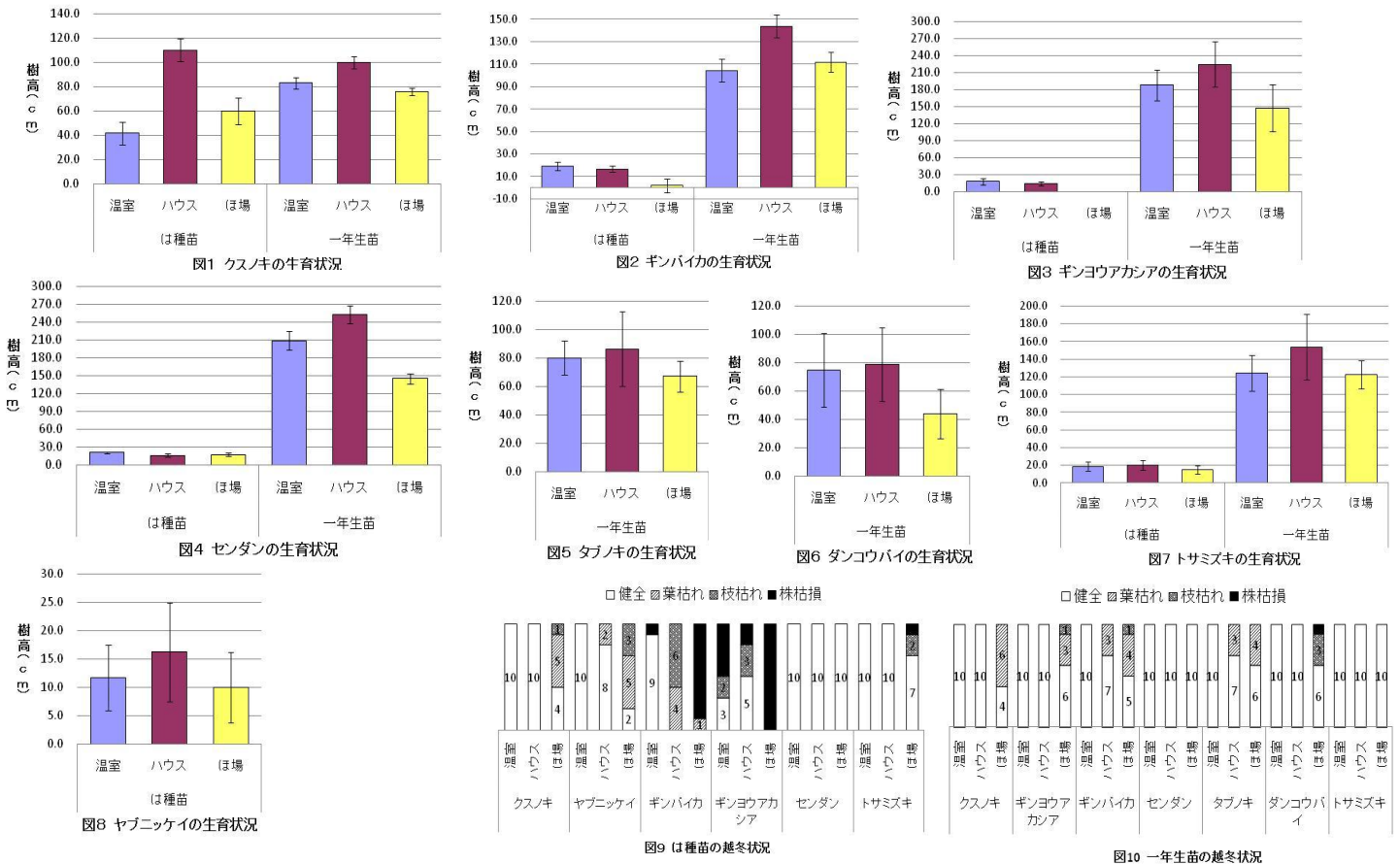
(7) トサミズキ

ほ場のは種苗は寒風による枝枯れが発生したが春期には回復し、一年生苗は各試験区とも障害は発生しなかった（図7、9、10）。一年生苗・は種苗ともに、ほ場で育苗・越冬が可能である。

(8) ヤブニッケイ

冬期のハウス・ほ場では寒風・降雪の影響により葉枯れや枯損（図8、9）が発生したが、ハウスでは春期には回復した。温室・ハウスでの育苗・越冬が適切である。

3 具体的データ



4 適用地域

中山間地を除く県内全域の植木生産地

5 普及指導上の留意点

- (1) 温室・ハウス内は、露地ほ場に比べて害虫が発生しやすい。
- (2) 殺虫剤の適用のない害虫は、発生時に補殺して拡大を防ぐ必要がある。

6 試験課題名（試験期間）、担当

地球温暖化に対応した新作目の探索と導入・評価（2008～2010）、森林・緑化担当